

令和7年度 晃宝小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「豊かな心と健やかな体をもち、創造的に考え、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きぬく人間」の育成を図る。

子ども像：進んで学ぶ子 がまん強くやりぬく子 仲良く協力する子

合言葉：晃宝っ子 やる気（知） 根気（体） 思いやり（徳）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「人間尊重の教育」を基調とし、豊かな心をもち、知・体・徳の調和のとれた、持続可能な社会の創り手として、生涯にわたってたくましく成長し続けられる人間の育成を図る。

「地域が学校～地域に学び、地域とともに伸びる晃宝小学校」を目指し、児童・保護者・地域の想いを生かして、全職員参加型の学校経営を展開することにより、児童にとって「明日も来なくなる楽しい学校」を目指して、「学びや笑顔のある学校」「仲間のいる学校」「活力のある楽しい学校」「安心・安全の学校」の具現化を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 持続可能な社会の担い手を育成するために、目指す子ども像や学校経営方針を共有し、家庭・地域社会とのさらなる連携を強化し、地域とともにある学校づくりに努める。
- (2) 学校教育における「学習活動」と「児童指導」の基盤となる学級経営を重視し、学びに向かう集団（学級）づくりをめざして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。また、「宇都宮モデル」を活用し、内容や時間のまとめを見通した授業をデザインした上で、ねらいを明確にして実施しながら、単位時間の指導の充実を図る。
- (3) 総合的な学習の時間や特別活動の時間などを中心に、教科横断的な視点に立ったカリキュラムマネジメントに努め、各教科等で身に付けた資質・能力を活用しながら、課題解決に取り組んでいく児童の育成を図る。
- (4) 心の教育の充実により、目標に向かって挑戦するたくましさ、規範意識や思いやりの心を育み、これから時代を生きる児童に必要な資質能力である自己肯定感・自己有用感の高い児童を育成する。
- (5) いじめ問題は最大の人権侵害であることから、根絶に向け、児童主体のいじめ根絶の取組や道徳の授業をとおして差別やいじめを許さない態度を育成する。
- (6) 進んで運動に取り組み、自身の変容や成長に気付き、生涯にわたって心身ともに健康に生活する資質や能力、安全教室や想定避難訓練等をとおして、自身の安全を守るための判断力や実践力を育成する。
- (7) 教育公務員としての使命を自覚し、豊かな人間性を備え、高い指導力と情熱を持ち続け、常に児童と向き合える教職員をめざす。
- (8) 全職員参画型の学校経営を目指し、意図的・積極的な役割分担（校務分掌配置等）とペテランをサポート役としたOJTに取り組み、ミドルリーダー及び若手教員の育成を図る。
- (9) 「教員が元気でなければよい教育はできない」という信念のもと、教職員の健康管理とワークライフバランス（プライベートの充実）を意識した働き方の実現に向け、チームでの仕事分担、教職員各自のタイムマネジメント力の向上、意識改革や業務改善に取り組み、「学校における働き方改革」を進めていく。

【国本地域学校園教育ビジョン】

自ら学び 心豊かで 元気な国本っ子 ～地域とともにある学校をめざして～

4 教育課程編成の方針

- (1) 各種教育法規や県及び市の指導方針の下、本校教育目標達成のための経営方針並びに前年度学校評価の課題等を踏まえて、本校教育の特色を具現化できるように編成する。
- (2) 人間尊重の精神を基盤とした本校の教育目標、経営方針、努力の方向等に基づき、心身ともに健康で、人間として調和のとれた心豊かでたくましい児童の育成を目指すとともに、地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分考慮した編成をする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学習指導】

- 基礎・基本の確実な定着 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ○学びが実感できる楽しい授業
- 学校図書館教育の充実 ○体験的学習・地域の力を取り入れた教育の充実 ○個別最適な学びの環境づくり
- 1人1台端末などのデジタル機器の効果的な活用 ○言語能力や情報活用能力の育成

【体力向上】

○健康と体力の保持増進 ○安全教育・食育教育の推進 ○運動する環境づくり ○教科体育の指導の充実 ○休み時

間時の外あそび推奨 ○家庭と連携しての基本的生活習慣指導 ○自己肯定感を高めることによるやり抜く態度の育成

【豊かな心づくり】

○道徳教育・心の教育の充実 ○特別活動の推進 ○特別支援教育の充実 ○人権教育の充実 ○教室内・校内の環境

整備 ○いじめを生まない指導・支援の充実 ○異学年の交流（GFT活動）の充実

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価															
				R6	R7	比較													
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 〈児童アンケート 80%〉	<p>① 学習活動に課題解決型の活動を意図的に取り入れる工夫をする。自分の考えをもとに友達と話し合うなど場面を多く取り入れる。</p> <p>② 課題解決に必要な情報を集める経験を重ねるため、図書資料や1人1台端末を利用する学習活動を取り入れていく。</p>	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>90.3</td> <td>89.0</td> <td>-1.3</td> </tr> </table>					R6	R7	比較	児童	90.3	89.0	-1.3				
	R6	R7	比較																
児童	90.3	89.0	-1.3																
【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的な深い学びにつながる課題解決型の授業が展開できるように授業改善に努める。 ・図書資料や1人1台端末等を有効に活用できるように職員研修の充実に努め、実践につなげる。 																			
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 〈児童・教職員アンケート 80%〉	<p>① 教育目標の合言葉「やる気 根気 思いやり」のもと、道徳や各教科の他、教育活動全般において、「思いやり」の心を育む教材での指導の充実を図る。</p> <p>② 縦割り班活動（GFT活動）の一層の活性化により、児童同士が互いを大切にし、認め合う態度を育む。</p>	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>91.7</td> <td>86.2</td> <td>-5.5</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94.3</td> <td>94.1</td> <td>-0.2</td> </tr> </table>					R6	R7	比較	児童	91.7	86.2	-5.5	教職員	94.3	94.1	-0.2
	R6	R7	比較																
児童	91.7	86.2	-5.5																
教職員	94.3	94.1	-0.2																
【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわ言葉キャンペーンや人権週間や縦割り班活動等、引き続き、様々な活動を通して、人権意識を高め、思いやりの心を育む指導を継続していく。 																			
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 〈児童アンケート 80%〉	<p>① 教育目標の合言葉「やる気 根気 思いやり」のもと、目標をもって活動に取り組める場面をより多く設定し、粘り強い取り組みによって児童が達成感を得られるように支援する。</p> <p>② 心の「たくましさ」の涵養に向け、やり抜く心や折れない心を育成する体験活動等の一層の充実を図る。</p>	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>88.0</td> <td>86.6</td> <td>-1.4</td> </tr> </table>					R6	R7	比較	児童	88.0	86.6	-1.4				
	R6	R7	比較																
児童	88.0	86.6	-1.4																
【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・進級や学期の切替などの節目に合わせたワークシートやキャリアパスポートなどを用いて児童の頑張りを認め、励ます。家庭と学校で連携も図りながら、保護者と教員が一丸となり、共通の方向性で継続指導していく。 																			

<p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 〈児童・保護者アンケート 80%〉</p>	<p>① 校内外での生活において、安全に行動しようという意識を高めるよう、様々な機会をとらえて、発達段階に応じた指導を行う。 ② <u>保健だよりや食育だよりの発行や、定期健康診断、給食週間やお弁当日の実施等を通して、家庭の健康や食に対する意識が高まるよう啓発を行う。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1044 130 1462 242"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>90.9</td><td>91.2</td><td>+0.3</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>83.0</td><td>84.6</td><td>+1.6</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係する児童会の活動と連携し、運動面や衛生面で、児童自ら安全について考えたり取り組んだりする機会を充実させる。 ・各種便りや保護者との懇談においても、児童の成長について伝え、家庭との連携を深めていく。また、生活習慣チェックカードやお弁当カードを通して、食事や健康について保護者と児童の関心を引き続き高めていく。さらに、ハンカチの持参率が上がるよう指導していく。 		R6	R7	比較	児童	90.9	91.2	+0.3	保護者	83.0	84.6	+1.6
	R6	R7	比較												
児童	90.9	91.2	+0.3												
保護者	83.0	84.6	+1.6												
<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 〈児童アンケート 80%〉</p>	<p>① 学校生活の様々な場面でお互いのよさを認め合うことができるような機会を意図的に設定する。 ② グループ活動で、協力して課題解決をしていくような場面設定を工夫する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1044 707 1462 774"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>89.3</td><td>88.6</td><td>-0.7</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りの場を設定し、互いのよさを認めえるような機会を充実させていく。また、今後も ICT 機器などを積極的に活用し、グループ活動で協力して課題解決していくような場を作る。 ・委員会やクラブ活動、清掃や係活動などで児童が活躍できる場を意図的に設定し、自己有用感が育まれるような働きかけを行う。 		R6	R7	比較	児童	89.3	88.6	-0.7				
	R6	R7	比較												
児童	89.3	88.6	-0.7												
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 〈児童・教職員アンケート 80%〉</p>	<p>① 外国語活動・外国語において、英語によるコミュニケーションの場を意図的に設定し、より効果的にコミュニケーションが図れるような支援により、外国語活動の一層の充実を図る。 ② ALT との授業内容等の打ち合わせを充実させ、発達段階や個に応じたきめ細かな支援に生かす。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1044 1156 1462 1268"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>81.0</td><td>81.5</td><td>+0.5</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>94.3</td><td>85.3</td><td>-9.0</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動・外国語において、外国語指導助手と連携を図りながら、英語を使って一人一人が楽しくコミュニケーションがとれるような活動の場を増やしていく。発達段階や個に応じたきめ細やかな支援を充実させる。 		R6	R7	比較	児童	81.0	81.5	+0.5	教職員	94.3	85.3	-9.0
	R6	R7	比較												
児童	81.0	81.5	+0.5												
教職員	94.3	85.3	-9.0												
	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 〈児童アンケート 80%〉</p>	<p>① <u>生活科や社会科、総合的な学習等において、国本地区や宇都宮市について学習する機会をとらえ、その「よさ」について考える活動を意図的に設定する。</u> ② 図書やパンフレット、インターネットなどから宇都宮学に関する資料や情報を収集し、自分の住んでいる地域や宇都宮市について触れる機会を増やして、その良さについて考え、振り返る活動を設定する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1044 1545 1462 1612"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>85.3</td><td>79.1</td><td>-6.2</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科や社会科、外国語・総合的な学習の時間等、教科横断的な学びとし、国本地区や宇都宮市について学習の機会を捉え、その「よさ」について考え、振り返る活動を充実させていく。 ・宇都宮学等の資料を掲示し、児童が自分の住んでいる地域や宇都宮市の様子を知る機会を増やせるようにする。 		R6	R7	比較	児童	85.3	79.1	-6.2				
	R6	R7	比較												
児童	85.3	79.1	-6.2												

2-(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 <児童アンケート 80%></p>	<p>① 各学習活動において、ICT 機器や図書を活用することが有効な場面について、さらなる検証を行い、より効果的な活用を行うことで授業の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 130 1457 197"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>87.6</td> <td>83.4</td> <td>-4.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が 1 人 1 台端末や図書等の活用について、職員研修等で研鑽を深める。 ・ICT 支援員や司書教諭と連携を図りながらデジタル機器や図書等を活用した授業の充実を図る。 		R6	R7	比較	児童	87.6	83.4	-4.2				
	R6	R7	比較												
児童	87.6	83.4	-4.2												
2-(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 <児童・教職員アンケート 80%></p>	<p>① 各教科・領域において個々のテーマについて別々に実施していた学習を、「持続可能な開発のための教育」(以下 ESD) の視点で統合的に再構築する。</p> <p>② 各学習における、環境問題やエネルギー問題、国際理解、防災等にかかる活動の場面をとらえ、日常生活と地球の課題との間につながりがあることが認識できるよう、児童に働きかけるなど、教職員が ESD を意識して日々の教育活動を実践する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 473 1457 586"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>89.0</td> <td>86.2</td> <td>-2.8</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>71.4</td> <td>61.8</td> <td>-9.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係、委員会活動、各教科の学習、日々の学校生活において、「持続可能な社会」との関連を意識できるよう、教職員が児童に働きかけるなど、SDGs 教育を意識しながら日々の教育活動を実践していく。 ・教職員が SDGs の意味を理解し SDGs をもとにした教材（社会・国語等）を扱い、積極的に取り入れる。 		R6	R7	比較	児童	89.0	86.2	-2.8	教職員	71.4	61.8	-9.6
	R6	R7	比較												
児童	89.0	86.2	-2.8												
教職員	71.4	61.8	-9.6												
3-(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	<p>A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 <教職員アンケート 80%></p>	<p>① 特別な支援が必要な児童生徒一人一人が自信と意欲をもって学校生活を送れることを目指し、かがやきルーム（特別支援教室）やゆうゆう教室（通級指導教室）の効果的な活用を行う。また、関連機関との連携により、多国籍化する外国人児童等への日本語指導を充実させる。</p> <p>②「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」の活用等を行い、教職員研修の充実により、教職員の指導力を向上する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 968 1457 1035"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>97.1</td> <td>100.0</td> <td>+2.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>十分達成している。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、担任一人が抱え込みず、組織的に対応できるよう、情報共有の場を頻繁に確保して、かがやきルームやゆうゆう教室を活用し、関係機関との連携を強化する。また、職員間の連絡・報告・相談を確実に行う。 ・特別支援教育に関する職員研修の充実を図る。 		R6	R7	比較	教職員	97.1	100.0	+2.9				
	R6	R7	比較												
教職員	97.1	100.0	+2.9												
3-(2) いじめ・不 登校対策の 充実	<p>A 11 教職員は、いじめが許されない行為であることを見つけて指導している。 【数値指標】 <児童・保護者アンケート 80%></p>	<p>① 「いじめゼロ強調月間」に「いじめゼロ集会」を設け、いじめ根絶に努めるとともに、朝の会、帰りの会、道徳の時間、学級活動などを通じて継続的に指導する。</p> <p>② 児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるよう、児童との相談週間「おはなしタイム」(年2回 6月1~11月) を充実させる。</p> <p>③ 児童指導研修会（年3回）や特別支援委員会（年5回）の実施により、全職員による協力体制を強化し、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 1421 1457 1534"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>96.9</td> <td>96.1</td> <td>-0.8</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>81.4</td> <td>77.2</td> <td>-4.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、いじめ問題に対して保護者と協力しながら、チームで対応していく。 ・いじめゼロに関する取り組みを HP などで発信する。 ・年2回の「おはなしタイム」だけではなく、気になる児童とは適宜教育相談を行っていく。 ・情報共有の場を活用し、全職員による協力体制を強化していく。 		R6	R7	比較	児童	96.9	96.1	-0.8	保護者	81.4	77.2	-4.2
	R6	R7	比較												
児童	96.9	96.1	-0.8												
保護者	81.4	77.2	-4.2												

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ＜児童・保護者・教職員アンケート80%＞	<p>① 各学級において、日々の児童観察や、信頼関係の構築に加え、教育相談の充実を図り、児童一人一人に寄り添いながら個に応じた支援を行う。</p> <p>② ケース会議や不登校対策委員会により、不登校の予防や不登校傾向児への対応の充実を目指し、学校体制で不登校対策の強化に取り組む。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>94.4</td> <td>94.4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>91.3</td> <td>86.4</td> <td>-4.9</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0</td> <td>100</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、個に応じた支援や学校体制での取り組みをするとともに、保護者との情報共有を十分することで信頼関係を密に構築していくようする。 		R6	R7	比較	児童	94.4	94.4	0	保護者	91.3	86.4	-4.9	教職員	100.0	100	0
	R6	R7	比較																	
児童	94.4	94.4	0																	
保護者	91.3	86.4	-4.9																	
教職員	100.0	100	0																	
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ＜児童・保護者アンケート90%＞	<p>① <u>学校行事や教育活動等に児童が意欲的・主体的に取り組めるよう、一人一人が活躍できる場や、多様な人と交流できる場を設定する。</u></p> <p>② なかよしタイム(業間)やふれあいタイム(昼休み)を活用した活動を充実させ、外遊びや縦割り班活動(GFT活動)での遊びを充実させて、明るく楽しい学校をめざす。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>94.8</td> <td>94.2</td> <td>-0.2</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>89.2</td> <td>83.4</td> <td>+7.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲良く、思いやりを持って活動できるよう外遊びのルールを確認したり、全学年が楽しめるようGFT活動を工夫したりしながら、遊びの充実を図る。 ・学年を超えて関わる児童の姿が増えるよう、友達のよさを伝える活動を取り入れ、一人一人を大切にする意識を育む。 ・学年だよりや学校HP等を活用し、児童がいきいきと活動する様子や頑張りを保護者や地域の方々への発信を強化していく。 		R6	R7	比較	児童	94.8	94.2	-0.2	保護者	89.2	83.4	+7.2				
	R6	R7	比較																	
児童	94.8	94.2	-0.2																	
保護者	89.2	83.4	+7.2																	
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ＜児童・保護者アンケート90%＞	<p>① <u>一人一人の学習意欲を高め、分かる喜びやできる喜びを味わえる授業の工夫・改善に努める。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいの明確化 ・学習の振り返りの工夫 ・教材開発、教材研究 ・指導法の工夫 <p>② 児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導や効果的な支援体制に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習やTTT、少人数指導 ・かがやきルームの有効活用 <p>③ 教師が互いに授業公開をし合っての検討や、要請訪問等の授業研究・研修等を通して、教職員の授業力の向上を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>95.2</td> <td>94.2</td> <td>-1.0</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86.2</td> <td>78.9</td> <td>-7.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かる喜びが味わえる授業ができるよう、授業の工夫・改善に努める。 ・児童の実態を把握し、習熟度別学習や少人数指導等、個別最適な指導ができるよう効果的な支援体制を構築する。 ・教職員が一人一授業や要請訪問等を通して積極的に授業公開したり、自主的に研修会を開いたりするなどして、授業力の向上を図る。 ・朝の学習の時間を有効に活用し、基礎基本の定着を図る。 		R6	R7	比較	児童	95.2	94.2	-1.0	保護者	86.2	78.9	-7.3				
	R6	R7	比較																	
児童	95.2	94.2	-1.0																	
保護者	86.2	78.9	-7.3																	
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ＜教職員アンケート80%＞	<p>① 関係職員との協力が可能な内容や場面を明確にし、教職員が各スタッフの専門性を十分に活用できるようにする。</p> <p>② 各スタッフが参画するものについて、その意義を明らかにし、教育活動充実のために、より効果の上がる連携を模索し、充実した学習指導や教育活動が行えるよう工夫する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>十分達成している。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各スタッフの専門性を活かせる場面の開発及び明確化と、記録に残して引継ぎ、定着や改善工夫を図ができるようなサイクルづくりを推進する。 		R6	R7	比較	教職員	100.0	100.0	0								
	R6	R7	比較																	
教職員	100.0	100.0	0																	

4－(3) 学校における働き方改革の推進	<p>A 16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 〈教職員アンケート 90%〉</p>	<p>① 学校行事の抜本的な見直しを行うとともに、本来学校が担うべき業務を明確にし、学校外の諸機関や保護者に対し、業務内容や勤務時間についての理解を得る働きかけを行って、業務を精選する。</p> <p>② 各種専門機関や地域等の学校支援の充実により、教職員が児童と向き合う時間を確保する。</p> <p>③ 時間調整を工夫し、職員間で必要な連携を図るために、打ち合わせ時間や作業時間等の確保に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 130 1473 197"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td><td>94.3</td><td>94.1</td><td>-0.2</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終わりの時間を決めること、さらなる業務を精選すること・チームで取り組むことで、教職員個々のタイムマネジメント力をさらに高め、業務効率化を進めます。 ・放課後時間の有効活用や業務の優先順位を意識し、ワークライフバランスの取れた働き方への意識改革を進めていく。 		R6	R7	比較	教職員	94.3	94.1	-0.2								
	R6	R7	比較																
教職員	94.3	94.1	-0.2																
5－(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	<p>A 17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 〈教職員・保護者・教職員アンケート 80%〉</p>	<p>① <u>交流授業を実施する。</u></p> <p>② <u>4校の教職員が協力して、小中学校において、一貫した保健指導や食育指導、読書指導等の取り組みを実施する。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 599 1473 714"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td><td>97.1</td><td>91.2</td><td>-5.9</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>77.2</td><td>78.0</td><td>+0.8</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、活動内容の充実・工夫に努め、開催方法を工夫して小中連携を図るとともに、活動の趣旨や成果を学校、地域、保護者が共有できるよう、情報発信に努める。 ・ホームページやさくら連絡網配信時に小中一貫関連の取組状況を掲載する際はタイトルを工夫し、周知に努める。 		R6	R7	比較	教職員	97.1	91.2	-5.9	保護者	77.2	78.0	+0.8				
	R6	R7	比較																
教職員	97.1	91.2	-5.9																
保護者	77.2	78.0	+0.8																
5－(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	<p>A 18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 〈児童・保護者・地域住民アンケート 80%〉</p>	<p>① 登下校時の自治会やPTA地区委員会の見守り、「こども110番の家」訪問の実施など地域との連携・協力を推進する。</p> <p>② 学校・家庭・地域の連携を行い、学習支援ボランティアによる学習支援を積極的に活用して、児童の学習活動の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 1082 1473 1230"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>90.5</td><td>89.0</td><td>-1.5</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>84.4</td><td>88.8</td><td>+4.4</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>84.6</td><td>100.0</td><td>+15.4</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き工夫して地域や企業等の教育力を活用する方法を開発し、よりよい児童の育成に取り組む。 ・地域との連携を密にし、学習支援ボランティアとの活動を広げ、活動の充実を図り、活動の様子を引き続き積極的に発信できるよう努める。 		R6	R7	比較	児童	90.5	89.0	-1.5	保護者	84.4	88.8	+4.4	地域住民	84.6	100.0	+15.4
	R6	R7	比較																
児童	90.5	89.0	-1.5																
保護者	84.4	88.8	+4.4																
地域住民	84.6	100.0	+15.4																
5－(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進																			
6－(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	<p>A 19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 〈保護者・地域住民アンケート 80%〉</p>	<p>① 常に児童の安全に十分配慮して、校内環境の整備や維持を行う。</p> <p>② 毎月の安全点検を的確に行い、児童の安全な生活のために、迅速な補修・修繕を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 1556 1473 1671"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td><td>85.7</td><td>89.3</td><td>+3.6</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0</td><td>100</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種便りや保護者との懇談においても、児童の成長について伝え、家庭との連携を深めていく。 ・児童と教員で一緒に校内の安全点検を行い、児童目線での安全確認を行うとともに、児童の安全に対する意欲を高めるようとする。 ・安全点検結果周知や補修・修繕依頼にICT機器を活用することで、より迅速に対応できるようにする。 		R6	R7	比較	保護者	85.7	89.3	+3.6	地域住民	100.0	100	0				
	R6	R7	比較																
保護者	85.7	89.3	+3.6																
地域住民	100.0	100	0																

6-(2) 学校のデジタル化推進	<p>A 20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができる。</p> <p>【数値指標】 ＜教職員アンケート 80%＞</p>	<p>① 1人1台端末を始めとするICT機器の効果的活用により、主体的・対話的で深い学びを促進する授業づくりを行う。</p> <p>② 学校業務に積極的にデジタルを使うことができるよう教員間で情報交換を活発にする。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 130 1457 197"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td><td>94.3</td><td>94.1</td><td>-0.2</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報主任・学習指導主任を中心にデジタル機器を有効に活用し、また整備の充実を図り、できる方策を職員間で活発に情報交換をする。 		R6	R7	比較	教職員	94.3	94.1	-0.2												
	R6	R7	比較																				
教職員	94.3	94.1	-0.2																				
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 ＜児童・保護者・教職員・地域住民アンケート 80%＞</p>	<p>① 児童・保護者・地域・教職員が協力し、時と場に応じたあいさつができる習慣づくりを目指す。</p> <p>② 地域学校園での合同あいさつ運動を実施し、明るいあいさつが実践できるようにする。</p> <p>③ 校内での指導を継続するとともに、家庭と地域が連携して指導に当たれるよう学校からの発信を工夫する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 415 1457 595"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>88.8</td><td>88.4</td><td>-0.4</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>81.4</td><td>79.1</td><td>-2.3</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>88.6</td><td>73.5</td><td>-15.1</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>84.6</td><td>100.0</td><td>+15.4</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会等で児童が主体的に取り組める活動をしていく。 ・昨年度に引き続き、地域学校園での合同あいさつ運動を継続する。 ・学校の取り組みを学級懇談会で話題に取り上げたり、学校便りやホームページで発信したりすることで、地域や家庭への啓発をしていく。 ・大人が手本となり、日常的なあいさつや会話をを行い、基本的なコミュニケーションの大切さを隨時指導していく。 		R6	R7	比較	児童	88.8	88.4	-0.4	保護者	81.4	79.1	-2.3	教職員	88.6	73.5	-15.1	地域住民	84.6	100.0	+15.4
	R6	R7	比較																				
児童	88.8	88.4	-0.4																				
保護者	81.4	79.1	-2.3																				
教職員	88.6	73.5	-15.1																				
地域住民	84.6	100.0	+15.4																				
<p>B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 ＜児童・保護者・教職員アンケート 80%＞</p>	<p>① 「晃宝っ子の1日」をもとに、生活において守るべきルールを月生活目標として各教室に掲示する。約束の内容や意義を児童・保護者・職員が共有し、共通理解のもと指導にあたる。</p> <p>② 生活指導当番による校内巡回や、児童指導連絡会における児童の様子についての情報共有により、児童の実態把握に努める。共通理解に基づき全校体制による指導改善を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 1066 1457 1201"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>92.4</td><td>90.7</td><td>-1.7</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>90.0</td><td>84.5</td><td>-5.5</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>91.4</td><td>79.4</td><td>-12.0</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、生活指導当番による校内巡回等の取り組みを継続し、問題点を教職員で話し合い、指導に生かす ・「晃宝っ子のきまり」を適宜児童と一緒に確認する。また、年度途中でも必要に応じて、「晃宝っ子のきまり」を検討・見直しを行い、全職員で共通理解を図り、児童指導を行う。 		R6	R7	比較	児童	92.4	90.7	-1.7	保護者	90.0	84.5	-5.5	教職員	91.4	79.4	-12.0					
	R6	R7	比較																				
児童	92.4	90.7	-1.7																				
保護者	90.0	84.5	-5.5																				
教職員	91.4	79.4	-12.0																				
地域連携	<p>B 3 学校行事やボランティア活動等、地域の人々や保護者と児童生徒が交流する機会がある。</p> <p>【数値指標】 ＜児童・保護者・地域住民アンケート 80%＞</p>	<p>① PTA主催行事（晃宝祭等）や地域協議会主催行事（池そうじ等）への参加促進を図る。</p> <p>② 地域の団体主催事業（チャレンジウォーク、かるた大会、たこあげ大会等）への参加促進を通じ、交流事業の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 1538 1457 1673"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>79.3</td><td>77.6</td><td>-1.7</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>80.4</td><td>86.3</td><td>+5.9</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>92.3</td><td>100.0</td><td>+7.7</td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事を周知する工夫をし、地域の教育力を活用する方法を開発し、特色ある教育活動の展開を図る。 ・奉仕作業を落ち葉掃きボランティアと合同で行うなど、児童と地域の方々との交流の機会を増やす。 ・活動前に各学級でボランティアや地域の方との交流について周知することで、児童も地域の一員である自覚を高める。 		R6	R7	比較	児童	79.3	77.6	-1.7	保護者	80.4	86.3	+5.9	地域住民	92.3	100.0	+7.7				
	R6	R7	比較																				
児童	79.3	77.6	-1.7																				
保護者	80.4	86.3	+5.9																				
地域住民	92.3	100.0	+7.7																				

家庭学習への取り組み	<p>B 4 児童生徒は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】<児童・保護者アンケート 80 %></p>	<p>① 宿題に対してや、自主学習ノートへのコメントを通して、児童の意欲喚起を図る。 ② 「学習のきまり」などで家庭学習の目安時間などを示すことによって目標を持たせる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 130 1457 233"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>83.3</td><td>76.9</td><td>-6.4</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>67.1</td><td>54.7</td><td>-12.4</td></tr> </tbody> </table> <p>十分に達成している。</p> <p>A</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の方法を指導し、参考になる自主学習ノートを紹介するなどして、頑張っている児童を称賛することで意欲喚起を図る。 ・授業参観・個人懇談等で、家庭学習時の見てほしい点や丸付けを依頼する意図等について丁寧に説明をし、保護者との連携を強化する。 ・家庭学習ウィーク等を設定し、家庭学習の意識を高める。 		R6	R7	比較	児童	83.3	76.9	-6.4	保護者	67.1	54.7	-12.4
	R6	R7	比較												
児童	83.3	76.9	-6.4												
保護者	67.1	54.7	-12.4												
健康体力	<p>B 5 児童生徒は、自主的に自分の健康には注意をして生活している。 【数値指標】<児童・保護者アンケート 80 %></p>	<p>① 健康診断結果お知らせや、保健だより等により自分の健康に興味をもち、治療や日常的な運動の大切さの理解を深める。 ② なかよしタブ(業間)やふれあいタブ(昼休み)を活用した活動を充実させ、外遊びや縦割り班活動(GFT活動)での遊びを楽しむことによって体力づくりにつなげる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 662 1457 765"> <thead> <tr> <th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>比較</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>84.9</td><td>85.8</td><td>+0.9</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>59.2</td><td>57.6</td><td>-1.6</td></tr> </tbody> </table> <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に児童がさらに体を動かしたくなるような取り組みを実施したり、校庭の使い方のルールの見直しを行ったりする。 ・教員間の体育の実践を共有したり、合同体育を実施したりするなどして、運動をしてみたいという思いを育む指導を充実させる。 		R6	R7	比較	児童	84.9	85.8	+0.9	保護者	59.2	57.6	-1.6
	R6	R7	比較												
児童	84.9	85.8	+0.9												
保護者	59.2	57.6	-1.6												

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学習面では、A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。」の項目で、児童の肯定的割合は9割を大きく超えている。一方、保護者の肯定的割合は8割を下回っているため、日々の教育活動を知つてもらえるよう、様々な方法で働きかけていく。また、B4「児童生徒は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。」の項目で、児童・保護者・教職員ともに昨年度を大きく下回った。教職員は、宿題や自主学習の質や量や出し方を工夫し、児童に家庭学習の意味や大切さを伝え、保護者の協力を得ながら家庭学習の充実に努めていく。
- ・毎年課題に挙げられている B2「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」の項目では、今年度は地域住民の肯定的割合は大幅に上昇したが、保護者の肯定的割合が下がってしまった。今後も継続して全校体制で取組み、時と場に応じたあいさつができる習慣づくりをしていく。また、A2「児童は、思いやりの心をもっている。」の項目では、児童の肯定的割合が昨年度を下回った。人権週間やふわふわ言葉キャンペーン期間だけなく、道徳の授業やGFT活動等の全ての教育活動において思いやりの心がもてるような機会を多く作るようにする。
- ・A17「学校は『小中一貫・地域学校園』の取り組みを行っている。」の項目で、児童・保護者。地域住民の肯定的回答は昨年度並み、教職員は昨年度を下回る結果となった。取り組み内容が認知されなかった結果であろうと思われる。周知の仕方に工夫が必要である。
- ・昨年度から地域協議会との連携事業や、地域の様々な行事が少しずつ復活してきている。今後も無理なくできる事を検討しながら、保護者・地域・学校との連携に取り組んでいく。また、読み聞かせや安全対策・学習支援などへの協力者がさらに増えるよう、継続して働きかけていく。

7 学校関係者評価

- ・登校時の見守り活動中に最初はあいさつが返ってこなかったが、回数を重ねていくと子どもたちからあいさつを返してくれるようになった。
- ・昨年度の学校のふわふわ言葉の活動を受けて、地域協議会として、立て看板等を作ったのは効果的であった。
- ・小学校では、思いやりの気持ちを育てていけるとよい。教職員や地域の大人が手本となって取り組んでいけるとよい。
- ・子どもの数の減少、自治体や育成会への未加入世帯の増加に伴い、地域での活動がなかなかできないことは残念である。また、地域の子どもたちと地域の大人が顔を合わせる機会も減ってきて、地域内でのつながりが希薄になってしまっている。
- ・アンケート結果から教職員のがんばりが、保護者に伝わっていないのは残念。教職員の疲弊が心配であるとともに、保

護者への周知の仕方には工夫が必要なのではないか。

8まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

昨年度と比較すると、全体的に地域の方々の肯定的回答は上回っているが、教職員と保護者の肯定的回答が下回っている項目が多い。保護者や地域協議会委員の方々から寄せられたご意見等を真摯に受けとめ、次年度の方針を具現化していきたい。

・教職員と保護者の肯定的回答率に差があった「いじめ・不登校」に関しては、道徳の授業だけでなく、全教育活動を通して人権教育などの研究を進めていくようにする。また、学級経営に関しては、学年経営を基盤とした学級経営を行うよう職員研修の充実を図っていくようとする。

・「分かる授業の展開・学力向上・家庭学習」に関しては、今年度の学力調査の分析から児童の実態を把握し、個人の教材研究にとどまらず、教職員同士が互いに学び高め合えるような体制づくりをし、現職教育の充実を図っていくようする。

○小中一貫教育に関しては、今後も、小中一貫教育に関する活動の意味や内容を丁寧に説明し、活動の様子の情報を積極的に発信していく。また、地域協議会のスローガン「みんなでつくる晃宝小」の実現に向け、ボランティア等で関わってくださっている地域の方々への感謝の気持ちや地域への愛着をもてるよう、折に触れて児童に伝えていく。